

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300072		
法人名	有限会社アダモ		
事業所名	グループホーム風		
所在地	静岡県富士市神戸738-6		
自己評価作成日	令和4年3月9日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;UjyosyoCd=2292300072-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;UjyosyoCd=2292300072-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年3月30日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者及び家族が日々安心して過ごせるよう寄り添える介護の実現を目指します。環境整備にも力を入れ、施設内は綺麗で快適な空間が保たれています。同時にスタッフが「働きやすい職場環境の整備」、「労働に見合った処遇の改善」に努め、安定したサービスが提供できるよう整備しております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いつまでも生き生きと輝いた笑顔があふれる日常を」との想い一つにして、9名の利用者と9名の職員が共に笑い、第二の家族として暮らしています。支援の基盤となる介護計画書は、ニーズ、目標、サービス内容へと円滑な連携がみられ、生活全般の解決すべき課題には情緒面も採用され安心です。またサービス担当者会議は医師にも意見を仰ぎ、コロナ禍でも課題がある場合は家族も交え、「チームでつくる」を実現させています。介護計画書にも衛生管理を盛り込み、居室を含めエアコンを全て入れ替えるなど常に清潔保持に努め、訪問歯科、訪問マッサージの出入りでは「においがまったくないね」と評価してもらっています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念である「相互尊敬」「相互理解」を職員が実践できるよう、信頼関係の構築及び寄り添う介護を意識したサービス提供に努めている。	企業理念「相互尊敬」「相互理解」の第1歩は、朝の朗らかな挨拶で始まります。朝、職員が一人ひとり利用者に声をかけてリビングを廻ることが習慣となり、気持ちの良いスタートができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会活動の参加など、地域住民との交流に努めている。	町内会にも加入、野菜や花なども届いています。近隣の信用金庫には事業所手製の介護情報を置かせてもらうなど、地域との関わりも年々広がっていて、直接介護相談も入っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の委託でまちづくりセンターでの介護講座の開催、近隣店舗へ広報誌を置かせてもらう等し情報の発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防の観点から今年度は開催をせず、書面での報告となり、十分な話し合いは行っていない。	運営推進会議には、町内会長、民生委員、生涯学習部長、市役所、地域包括支援センター、利用者家族とメンバーが揃っていますが、現在は書面開催となっています。	条例下の取組みのため、資料作成だけでなく「見た(確認した)」との返信とともに意見をもらう仕組みをつくり、書面開催として整備することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	都度不明な点、対応に苦慮した場合には市担当者へ連絡をし確認をしている。	市役所からはマスクや防護服の支給を受ける一方で、昨年度は市役所の依頼で近くの公民館において介護講座の講師を引き受けています。また利用者はサンサン体操・元気アップマーチ・富士市民歌体操に親しみ、歌える人もいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に管理者及び主任が状況確認、定期的に会議において身体拘束禁止についての周知及び禁止行為内容を確認している。	現状、身体拘束が必要な利用者はいません。身体拘束・高齢者虐待防止委員会では、不適切ケアや施錠についての振り返りと確認のほか、利用者のADLを鑑みた介護方法についても話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時の身体確認、抜き打ちでの聴き取りを実施。その他防犯カメラ(共用スペースに限定)でのチェックをしている。同時に職員のストレスチェックをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年より導入したe-ラーニングを使用し、研修を実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	通常の対応以外の事象が発生した場合にはその都度連絡、不明点や要望に対して回答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意思表示可能な利用者へは定期的に要望確認、家族には概ねひと月に1回は連絡をし確認。 その内容は書面にてスタッフに周知している。	家族アンケートの回収率も高く、また内容も日頃の感謝や連絡が密なことを評価くださっていて、家族との関係が良好なことが覗えます。面会もままならないため、事業所ではスナップ写真を届けるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議開催時及び個別の聴き取りにより現場の意見を吸い上げサービス向上に努めている。	配置も基準より高め、「疲れたらお茶していいんだよ。でも利用者さんと一緒にね」との代表の言葉に支えられ、日常的に職員意見を反映した運営が成されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価により昇給及び賞与を支給、その他必要備品の購入など労働環境整備に努めている。 (例)資格取得による手当の増額等		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得支援制度の策定、法人内でのe-ラーニングシステムの導入、介護福祉士会による出前講座の受講等。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当年度は自粛しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聴き取りが可能な利用者に対しては都度困りごとがないか？必要なものはないかを確認、重度の利用者に対しては表情・身体状況から今必要としているサービスを判断している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的にモニタリングを実施し、家族へ外部のサービスを含めた必要なサービスの提案、要望の確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	外部サービスを含め、希望とされる支援が実現できるよう調整をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設をひとつの家と考え、利用者に安心を提供出来るよう、業務優先ではないサービスを提供に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に状態報告(電話・書面)、写真を送ったりするなど家族も随時様子が把握できるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	和室をリフォームし面会室の設置、感染拡大後は電話・LINE等にて対応。外出については現在必要最低限としている。	テラスのテーブルセットが面会スペースでしたが、物置的になりつつあった和室を寒さ対策に備えて改修しています。ただ、現状面会は電話とLINEが主となっていて、まだ活躍はできていません。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内の席の配置を工夫したり、レクリエーション等を行い良好な関係が継続出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	広報誌の郵送等をしている。 但し近年は該当者なし。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から好みや希望の確認をしている。 確認が困難な場合は職員間で話し合い、利用者本位のケアが出来るように努めている。	これまで出来ていたことを通じて、やりがいや有用感を維持して欲しいとして、ゴミ捨てや洗濯たたみといった生活リハビリを介護計画にも位置づけています。また作業を通じて会話も弾んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より面会時・電話連絡時に情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の身体状況・活動内容をタブレット端末に記録及び申し送り時に確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者及び家族から情報及び意向を聴き取り、心身の状態・生活状況をアセスメント、その後現場職員及び家族とプランの内容を検討した上で作成をしている。	利用者の日々の様子を職員がモニタリングシートや介護日誌に残し、カンファレンスでは介護支援専門員が職員意見を収束させて介護計画書へとつなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット端末へ記録、重要なことは口頭にて伝達し必要に応じて計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	洋服の買物、病院受診同行等可能な限り施設スタッフにて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内活動への参加、ボランティア団体の訪問 ※当年度は開催中止及び自粛		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には経過や生活の様子等の情報を提供し、医師からは観察事項や生活上の注意事項の指示を受け、ご利用者が適切な医療を受けられ、また健康管理、異常の早期発見ができるよう連携に努めている。	内科は2箇所の医院を協力医として、双方から手厚い配慮を得ています。訪問看護が週1回あるほか、歯科の訪問診療は月1～2回、全員ではなく7名が受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理訪問では日常の様子、変化等を報告し、気に掛かることは随時相談している。また、必要時に24時間体制にて対応可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご利用者が適切な医療、看護を受けられるよう、必要適切な情報提供に努めている。病院関係者からは状況や経過を聴き取り、情報を共有しながらスムーズな退院、帰所後が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご利用者、ご家族の意向を確認し、その後も必要時話し合い再確認している。事業所で出来る限りの対応に努めるとともに限界についても十分に説明をし納得して頂けるよう努めている。医師、看護師も含め方針を共有できるよう努めている。	契約時には「利用者の重度化した場合の対応に係わる指針」で家族には説明をおこなっています。90歳以上が4名と、いつ看取りとなってもおかしくない状況にあり、職員は普段の様子観察に余念なく、気づかっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル、事故防止及び対策マニュアルを作成し、熟知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に2回テーマを決め行っている。 1.火災時 2.地震発生時	年2回の防災訓練は火災と地震で実施しています。その他にも防災業者の点検日には、自動通報装置の使い方や要領を得ない職員が個別に指導を受けるなどのフォローにあたっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「言葉遣い」「虐待防止」についての指導をし、常に接遇を意識して適切な言葉遣いと対応に努めている。	会議の議事録には「職員間で業務に関係のない不適切な会話がみられます」と記載があり、利用者の気分を害していないかについて、気づかっていることが確認できます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る環境づくりや言葉掛けを行っている。表現が困難な方には言動からニーズを読み取り代弁するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居心地よく生活出来るように支援している。活動や行事への参加は個人の意思を尊重し、起床や就寝時間は可能な限り1人1人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりや好み、これまでの習慣を尊重しながら、清潔を心がけ、季節や場所に適した衣類等のアドバイスをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	湯煎ベースではあるがご利用者の嗜好に合った料理や季節感のある食事が提供出来るように努めている。必要に応じて手作りの料理を加えて提供もしている。	ご飯と味噌汁は職員が調理していますが、惣菜は湯煎で提供する形のもので業者から届いています。味はよいものの、やや茶色が多いため、職員がプチトマトや果物で補完しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	楽しく安全に食事が出来るように支援、食事、水分摂取量を都度把握して健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた援助で、起床時と毎食後の計4回口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タブレット端末の記録及び排泄チェック表をもとに声掛けや誘導を行っている。	ベッド上でおむつ交換が必要な人は5名います。記録はタブレット端末とチェック表で、アナログとデジタルのダブル対応です。一定期間で流れを見れるアナログが排便コントロールに役だっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使用したり、水分を十分摂ることを心がけ、毎日運動の時間を設け便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	シフトで入浴日は事前に決めておりますが、その時の身体状況により調整しています。全利用者がゆっくりとお湯に浸かれるよう対応しております。	機械浴が設置されています。現在、リフト浴を使う利用者は6名います。着脱着衣の際には、むくみや赤み、腫れなどがないか十分注意して観察しています。	浴剤を3種類使用していますので、選択機会として利用者本人に選んでもらうことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に合わせてベッド及びマットを提供して、日中においても個々に休息が取れるよう対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服薬情報(効能・副作用・注意事項)は全職員が直ぐに確認出来る場所に置き、副作用については口頭でも伝えております。配薬は管理者が一元的に管理し行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な方には食器拭き、洗濯衣類をたたむ仕事を日課としてお願いしております。その他音楽・映画鑑賞、運動レクリエーション等の支援実施。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により自粛中です。行きつけの美容院がある方のみ外出支援をしております。なお以前はイチゴ狩り、みなど公園へ散策、桜の花見などの外出支援をしておりました。	コロナ禍以前は季節ごとに少し足を延した外出イベントが実現していましたが、現在は自粛しています。日々の散歩とともに、のんびり庭を眺めることができる昔懐かしい縁側で、外気浴に親しむ人もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預り金として施設管理となっており、家族より了承が得られた方については個人品の買物等が可能となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、本人自ら出来る対象者がおりません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには掲示物、家具等は最小限にし、自宅に近い環境を心掛けています。	ごく普通の家庭のリビングにお嫁にいった姉妹が里帰りしているかのような仲睦まじさで、ソファは仲良しの象徴として重宝されています。また居室を含めエアコンを全て入れ替え、空気清浄機能付き加湿器十数台を購入、清潔保持に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の配置を工夫したり、椅子を縁側に移動したりと、個々に快適に過ごせるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご利用者、ご家族と相談をし、馴染みや思い入れのある家具や物を置きその人らしく安心して落ち着いて過ごせる居室づくりをしている。	車いすが必要となり、動線を検討して家具の位置を変えた部屋もあります。また職員からは利用者の安全配慮からセンサーマット4台の購入希望があがっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の人員的余裕はありませんが、可能な限り自立した生活が送れるようADLの維持に努めております。		